

2018年7月と8月の猛暑が全国および中部圏の 家計消費に与える影響について

要旨

本レポートでは、本年の7月と8月における猛暑が、全国および中部圏の家計消費に与える影響を定量的に分析した。

1. 全国および中部圏における記録的猛暑

2018年の7月と8月は、全国および中部圏にとって記録的な猛暑となった。7月は富山市の月平均気温の平年値からの差が3.2℃、金沢市では3.0℃、福井市では3.1℃、長野市では3.0℃、岐阜市では3.1℃、静岡市では2.4℃、名古屋市では2.9℃、津市では2.4℃、大津市では2.7℃であった。なお、全国では2.4℃であった。2018年8月は富山市の月平均気温の平年値からの差が1.2℃、金沢市では1.2℃、福井市では1.4℃、長野市では0.9℃、岐阜市では1.8℃、静岡市では1.6℃、名古屋市では1.9℃、津市では1.7℃、大津市では1.4℃であった。なお、全国では1.7℃であった。

2. 全国および中部圏経済への影響

一般的に気温は家計消費に大きな影響を与える。

そこで、本レポートでは、2018年7月と8月の猛暑が、全国および中部圏の家計消費にどのような影響をもたらしたのかについて、家計調査などのデータを用いて定量的に分析した。本レポートの分析から、今夏の猛暑の影響により、全国の名目消費支出全体が平年値からの乖離率で7月が0.4%、8月が0.3%増加する一方で、全国の実質消費支出全体は平年値からの乖離率で7月が▲0.7%、8月が▲0.6%減少するとの結果を得た。同様に、中部圏各県庁所在地については、名目で7月が0.1~0.8%、8月が0.2~0.6%増加する一方で、実質で7月が▲0.4~▲0.9%、8月が0.0~▲0.8%減少するとの結果を得た。

消費支出全体の平年値からの乖離率は毎年数%単位で変化しており、これと比較すると、本レポートの分析結果で得られた猛暑の影響による乖離率への効果は名目、実質ともに絶対値において1%もなく、大きなものとは言えない。品目別に見れば、アイスクリームや飲料、エアコンが大きく増加し、ビールを含む酒類、光熱・水道

などの消費支出も増加するとの結果を得ているが、一方で、外出を伴う被服及び履物、交通、教養娯楽などの消費支出が相殺するように減少するため、消費支出全体への影響という意味では限られたものになると考えられる。結局、所得の制約が存在する下では、ある品目の消費支出を必要に迫られて増加させる場合、他の品目の消費支出をその分減少させることになる。本レポートの分析結果は、今夏の猛暑においても、こうした相殺が発生した可能性を示唆する。もちろん、分析からは、品目により2桁以上の乖離率の増減となるという結果も得ており、個々を見れば影響は大きいとも判断できるが、今夏の猛暑の家計消費に与える影響を考える上では、プラスもしくはマイナスの影響が大きく出た品目にのみ着目して大袈裟に考えるのではなく、消費支出全体でとらえる必要があるだろう。

消費支出全体への影響という意味では、猛暑の影響による乳卵類や野菜・海藻などの価格上昇は重要である。価格の上昇は、名目ベースで消費支出を増加させる一方、家計の購買力の低下につながるため、物価の影響を除いた実質ベースでの消費支出を減少させると考えられる。本レポートの分析からは、猛暑の影響で全国および中部圏の家計の名目消費支出は増加する一方、物価の影響を除いた実質消費支出は減少するとの結果を得ており、総合的と言える。つまり、今夏の猛暑は、全国および中部圏の家計の負担感を増大させる一方で、実質的な消費にはマイナスの影響をもたらしたと結論づけられる。

最後に、本レポートの分析で得られた乖離率を、全国および中部圏各県のマクロの家計消費の水準でとらえなおす。全国および中部圏各県の2018年度家計最終消費支出の見通しに乖離率を掛け合わせることで概算すると、全国では7月と8月における猛暑の影響で名目家計最終消費支出が合わせて1,655億円増加し、一方で実質家計最終消費支出が▲3,279億円減少することになる。同様に、富山県は名目で22億円増加する一方で、実質で▲26億円減少、石川県は名目で26億円増加する一方で、実質で▲16億円減少、福井県は名目で17億円増加する一方で、実質で▲16億円減少、長野県は名目で35億円増加する一方で、実質で▲20億円減少、岐阜県は名目で35億円増加する一方で、実質で▲56億円減少、静岡県は名目で20億円増加する一方で、実質で▲123億円減少、愛知県は名目で204億円増加する一方で、実質で▲142億円減少、三重県は名目で31億円増加する一方で、実質で▲29億円減少、滋賀県は名目で18億円増加する一方で、実質で▲38億円減少することになる。

1. 全国および中部圏における記録的猛暑

2018年の7月と8月は、全国および中部圏にとって記録的な猛暑となった。国土交通省気象庁「日本の月の天候」によると¹、2018年7月について、東日本の月平均気温は平年値²からの差がプラス2.8℃、7月として統計開始（1946年）以来第1位の高温を記録し、西日本でも1994年に次ぐ第2位タイとなった。また、7月23日には、埼玉県熊谷市で、41.1℃を記録、国内における最高気温歴代全国1位を5年ぶりに更新した。高温は8月も続いた。

中部圏においても、8月6日に岐阜県下呂市金山で、8月8日には岐阜県美濃市で最高気温の歴代全国2位タイとなる41.0℃を記録、愛知県名古屋市では、8月3日に観測史上初めて40.0℃を超えた。

中部圏各県庁所在地の7月と8月の月平均気温と平年値からの差をみると（付録図1-1～1-18）、2018年7月は富山市の月平均気温の平年値からの差が3.2℃、金沢市では3.0℃、福井市では3.1℃、長野市では3.0℃、岐阜市では3.1℃、静岡市では2.4℃、名古屋市では2.9℃、津市では2.4℃、大津市では2.7℃であった。なお、全国では2.4℃であった³。2018年8月は富山市の月平均気温の平年値からの差が1.2℃、金沢市では1.2℃、福井市では1.4℃、長野市では0.9℃、岐阜市では1.8℃、静岡市では1.6℃、名古屋市では1.9℃、津市では1.7℃、大津市では1.4℃であった。なお、全国では1.7℃であった。

2. 全国および中部圏経済への影響

一般的に気温は家計消費に大きな影響を与える。例えば、直感的な例として、総務省統計局「家計調査」のデータから、2017年における家計のアイスクリーム・シャーベットの消費支出（全国、二人以上の世帯）を1月から12月まで比較すると、夏場は冬場の2～3倍多くなっていることがわかる（図2-1）。

気温と家計消費の関係については、「年別」に夏場の消費を比較しても同じことが言える。7月と8月の月平均気温が平年値よりも高くなる年には、飲料やアイスクリームの消費が高い水準となる傾向にある。図2-2は、同じく「家計調査」のデータから、年別の7月と8月の家計の飲料消費支出（全国、二人以上の世帯）と月平均気温の平年値からの差（全国）を比較している⁴。一見して、両者に高い相関があることがわかる。

気温が影響するのは、飲料やアイスクリームだけではない。猛暑になれば、エアコン、冷蔵庫といった家電の販売が好調となるであろう。一方で、気温が高くなりすぎると、外出が控えられ、旅行などのレジャーや外食が減る可能性がある。さらに、気温は乳卵類や

¹ <https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/longfest/monthly/>を参照。

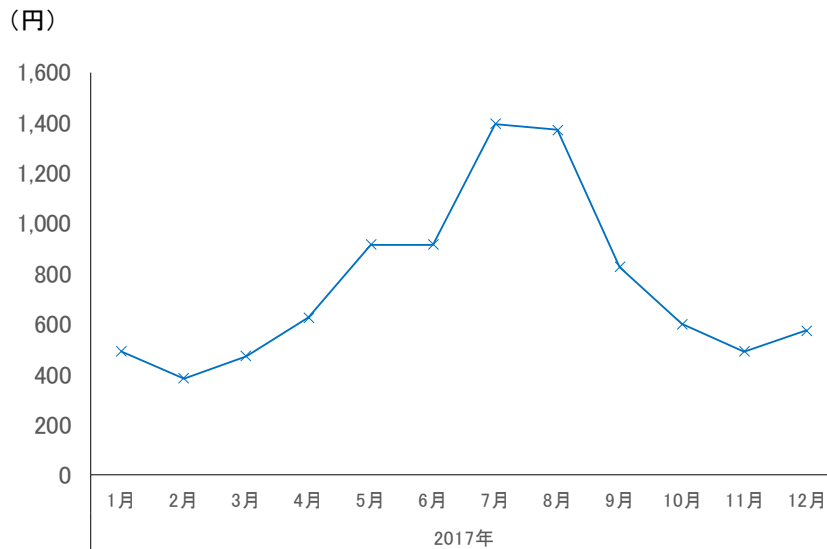
² 気象庁によると、現在使用している平年値は1981年から2010年までの30年間の観測値に基づく。

³ 全国の値については、7月、8月とも、気象庁発表の47都道府県庁所在地の月平均気温と平年値の単純平均を計算し、両者の差をとった。なお、気象庁では網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木（高岡市）、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島の15地点の月平均気温データから算出した「日本の月平均気温偏差」を公表しており、それによると、2018年7月は1.61℃、2018年8月は0.46℃である。

⁴ 「家計調査」の品目分類における「飲料」は、ビールなどの「酒類」は含まれない。

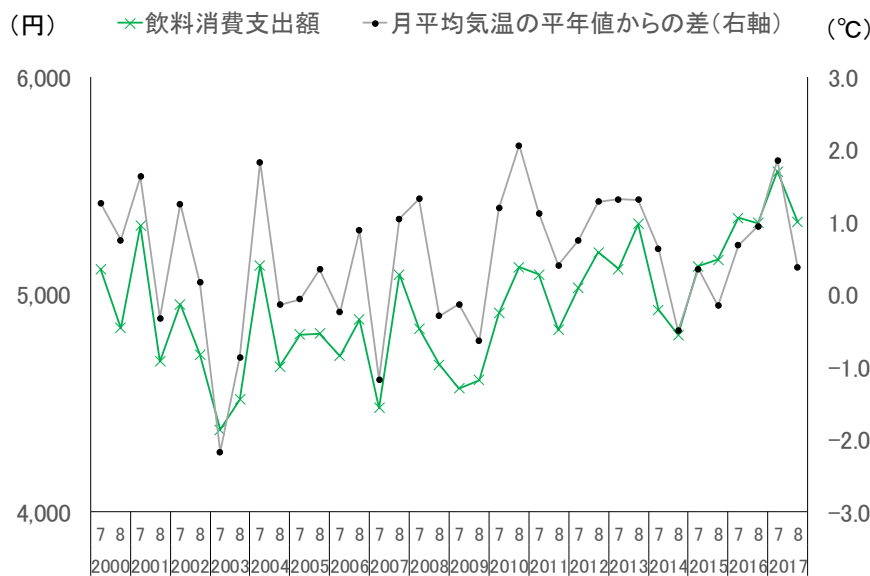
野菜の生産量を左右することで、価格に影響するため、消費に間接的な影響を及ぼす。電気・ガス・水道代といったいわゆる水道光熱費も気温と関係すると考えられる。

図2-1 家計のアイスクリーム・シャーベット月別消費支出
 (2017年、全国、二人以上の世帯)



(出所) 総務省統計局「家計調査」

図2-2 年別の7月と8月の家計の飲料消費支出 (全国、二人以上の世帯) と月平均気温の平年値からの差 (全国) の比較



(出所) 総務省統計局「家計調査」と国土交通省気象庁のデータから当財団作成

そこで、本レポートでは、2018年7月と8月の猛暑が、全国および中部圏の家計消費にどのような影響をもたらしたのかについて、定量的に分析する。

分析は以下の手順で行う。まず、2000年から2017年までの7月と8月のデータを用いて、全国および中部圏各県庁所在地の名目消費支出について、品目別⁵に、消費に影響する各要素、つまり、平均気温のほか、降水量の合計、名目可処分所得、休日数を説明変数として、重回帰分析をする⁶。ここで得られた平均気温の係数は、降水量の合計・名目可処分所得・休日数の違いがもたらす影響を考慮したうえで、平均気温が平年値から1度上昇した場合に当該品目の名目消費支出の平年値からの乖離率が何%増加/減少するのかを示す。

付録表2-1は全国の家計の飲料消費支出(名目)についての重回帰分析の結果である。表中の平均気温の係数に、2018年7月と8月の全国の気温の平年値からの差、2.4(°C)と1.7(°C)を掛けると、飲料消費支出(名目)は平年値からそれぞれ11.1%、7.8%増加するとの結果を得る。これらが、2018年7月と8月の猛暑、つまり気温上昇が飲料消費支出(名目)に与える影響ということになる。

次に、実質消費支出について、同様の分析を行う。なお、実質ベースで消費支出を考える場合、通常、物価の上昇によって消費支出は減少する。したがって、実質ベースでの重回帰分析においては、全国および中部圏各県庁所在地における当該品目の消費者物価指数を説明変数に追加し物価の影響も考える⁷。ここで得られた平均気温の係数は、平均気温が平年値から1度上昇した場合に当該品目の実質消費支出の平年値からの乖離率が何%増加/減少するのかを示す。また、物価の係数は、物価が平年値から1%上昇した場合に当該品目の実質消費支出の平年値からの乖離率が何%増加/減少するのかを示す。

本夏の猛暑の影響で、乳卵類や野菜の価格が上昇した可能性がある。乳卵類や野菜の価格上昇は、家計の名目消費支出を増加させる一方、実質消費支出にはマイナスの影響を与えると考えられる。実質消費支出のマイナスの影響の大きさは、重回帰分析で得られた物価の係数に、猛暑の影響による2018年7月と8月の乳卵類や野菜の価格の平年値からの乖離率を掛けることで得られる。ただし、この場合、猛暑の影響によって乳卵類や野菜の価格が平年値からどのくらい乖離したのかを推計する必要がある。ここでは、総務省統計局

⁵ 品目としては、乳卵類、野菜・海藻、果物、アイスクリーム・シャーベット、調理食品、飲料、ビールなどを含む酒類、外食などの食料、電気冷蔵庫、エアコンなどの家具・家事用品、宿泊料、パック旅行費、遊園地入場・乗物代などの教養娯楽、光熱・水道、被服及び履物、交通・通信といった家計調査に登場する品目を網羅的に扱っている。

⁶ 具体的には、被説明変数については、「家計調査」(二人以上の世帯)の名目消費支出について、品目別に7月と8月の2000年から2017年までの平均を平年値として、平年値からの乖離率を計算したものをを用いている。説明変数については、月平均気温と降水量の月合計は気象庁発表の平年値(1981年から2010年までの30年間の観測値に基づく)からの乖離差を用いている。名目可処分所得は、「家計調査」(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)の可処分所得について、2000年から2017年までの7月と8月のそれぞれの平均を平年値として、平年値からの乖離率を計算したものをを用いている。なお、降水量の月合計の全国値については、月平均気温と同様の計算による。

⁷ 具体的には、総務省統計局「消費者物価指数」全国および中部圏各県庁所在地の品目別指数について、7月と8月の2000年から2017年までの平均を平年値として、平年値からの乖離率を計算したものをを用いている。なお、説明変数の可処分所得については、「生鮮食品を除く総合」指数を用いて実質化している。

「消費者物価指数」から、乳卵類、野菜・海藻の指数における、2000年から2017年までの7月と8月の平年値からの最大の乖離率で代替した(全国では、それぞれ8.5%、13.0%⁸)。

以上の重回帰分析を全国および中部圏各県庁所在地の各品目で実施した結果から、家計の名目消費支出および実質消費支出が、猛暑の影響でどの程度増加/減少したのかをまとめたものが、表2-1～表2-40である。

ここでは、7月、8月の猛暑の影響により全国の名目消費支出全体が平年値からの乖離率で7月が0.4%、8月が0.3%増加する一方で、全国の実質消費支出全体は平年値からの乖離率で7月が▲0.7%、8月が▲0.6%減少するとの結果を得た。同様に、富山市は名目で7月が0.6%、8月が0.5%増加する一方で、実質で7月が▲0.9%、8月が▲0.4%減少、金沢市は名目で7月が0.6%、8月が0.6%増加する一方で、実質で7月が▲0.6%、8月が▲0.2%減少、福井市は名目で7月が0.6%、8月が0.5%増加する一方で、実質で7月が▲0.6%、8月が▲0.4%減少、長野市は名目で7月が0.4%、8月が0.4%増加する一方で、実質で7月が▲0.5%減少、8月が0.0%横ばい、岐阜市は名目で7月が0.5%、8月が0.5%増加する一方で、実質で7月が▲0.9%、8月が▲0.6%減少、静岡市は名目で7月が0.1%、8月が0.2%増加する一方で、実質で7月が▲0.9%、8月が▲0.8%減少、名古屋市は名目で7月が0.8%、8月が0.6%増加する一方で、実質で7月が▲0.5%、8月が▲0.4%減少、津市は名目で7月が0.5%、8月が0.4%増加する一方で、実質で7月が▲0.4%、8月が▲0.4%減少、大津市は名目で7月が0.3%、8月が0.4%増加する一方で、実質で7月が▲0.9%、8月が▲0.5%減少するとの結果を得た。

消費支出全体の平年値からの乖離率は毎年数%単位で変化しており、これと比較すると、本レポートの分析結果で得られた猛暑の影響による乖離率への効果は名目、実質ともに絶対値において1%もなく、大きなものとは言えない。

品目別・地域別の特徴について言及すると、まず、アイスクリーム⁹および飲料の消費支出は名目、実質とも予想どおり大きく増加するとの結果を得た。月平均気温の平年値からの差が大きかった7月には、全国ならびに多くの地域で平年値からの乖離率が2桁増となっている。アイスクリームの消費が多いとされる北陸3県の富山市、金沢市、福井市については¹⁰、富山市と金沢市でむしろ増加率が全国を下回る結果となった。日常的に多くの消費をしていることから、気温への感応度はそれほど大きくない可能性がある。飲料についても、同様に、7月には全国ならびに多くの地域で平年値からの乖離率が2桁増となっている。唯一の例外は静岡市であり、むしろ猛暑の影響によって飲料消費支出は減少すると

⁸ なお、2018年9月7日現在、「消費者物価指数」2018年7月分はすでに公表されている。乳卵類、野菜・海藻の指数における平年値(2000年から2017年までの7月の平均)からの乖離率は全国でそれぞれ10.6%、13.0%であった。ただし、乳卵類の物価指数は2018年4月頃から高水準で推移しており、乖離率の全てが猛暑の影響によるものとは考えにくい。

⁹ 正確には「アイスクリーム・シャーベット」。

¹⁰ 2017年の「家計調査年報」(二人以上の世帯)によると、全国で9,047円の消費支出に対し、富山市10,686円、金沢市12,475円、福井市9,977円の消費支出となっている。

の結果を得た。静岡市は、飲料に含まれる緑茶の消費支出が全国より圧倒的に多く¹¹、熱いお茶への需要が大きいと考えられる。したがって、気温が高くなることが、必ずしも飲料消費支出の増加に結び付かない可能性がある。ビールを含む酒類についても、全国ならびにほとんどの地域で増加するとの結果を得た。調理食品、外食については、地域によって異なる結果となっている。猛暑の影響により、外出が控えられ、外食は減ると考えられたが、静岡市や名古屋市ではむしろ増加となっている。気温が高くなると、家庭内でガスを用いる調理を避けて外食するという選択もあり、静岡市や名古屋市は他の地域より身近に外食する場所が存在しているという背景があるのかもしれない。なお、野菜・海藻については、価格上昇の影響で名目では消費支出が増加し、実質では減少するとの結果を得た。食料全体でも同じことが言える。光熱・水道の支出への影響は主に冷房器具の使用の増加によるものと考えられる。全体的に富山市、金沢市、福井市の増加率が大きくなっているが、一家計における居住面積や部屋数が関係している可能性がある。エアコンディショナは7月には全国ならびに多くの地域で平年値からの乖離率が2桁増となっている。被服及び履物の消費支出は百貨店などへの外出を伴う。交通への支出や宿泊料、パック旅行費、遊園地入場・乗物代などを含む教養娯楽への支出もやはり外出を伴う。これらについては、全国ならびにほとんどの地域で猛暑の影響により減少するとの結果を得ており、アイスクリームや飲料、光熱・水道、エアコンディショナへの押し上げ効果を相殺していると考えられる。

まとめると、品目別に見れば、アイスクリームや飲料、エアコンが大きく増加し、ビールを含む酒類、光熱・水道などの消費支出も増加するとの結果を得ているが、一方で、外出を伴う被服及び履物、交通、教養娯楽などの消費支出が相殺するように減少するため、消費支出全体への影響という意味では限られたものになると考えられる。結局、所得の制約が存在する下では、ある品目の消費支出を必要に迫られて増加させる場合、他の品目の消費支出をその分減少させることになる。本レポートの分析結果は、今夏の猛暑においても、こうした相殺が発生した可能性を示唆する。もちろん、分析からは、品目により2桁以上の乖離率の増減となるという結果も得ており、個々を見れば影響は大きいとも判断できるが、今夏の猛暑の家計消費に与える影響を考える上では、プラスもしくはマイナスの影響が大きく出た品目にのみ着目して大袈裟に考えるのではなく、消費支出全体でとらえる必要があるだろう。

消費支出全体への影響という意味では、猛暑の影響による乳卵類や野菜・海藻などの価格上昇は重要である。価格の上昇は、名目ベースで消費支出を増加させる一方、家計の購買力の低下につながるため、物価の影響を除いた実質ベースでの消費支出を減少させると考えられる。本レポートの分析からは、猛暑の影響で全国および中部圏の家計の名目消費支出は増加する一方、物価の影響を除いた実質消費支出は減少するとの結果を得ており、

¹¹ 緑茶は茶葉のみを意味する。2017年の「家計調査年報」（二人以上の世帯）によると、全国で4,103円の消費支出に対し、静岡市6,600円の消費支出となっている。

整合的と言える。つまり、今夏の猛暑は、全国および中部圏の家計の負担感を増大させる一方で、実質的な消費にはマイナスの影響をもたらしたと結論づけられる。

最後に、本レポートの分析で得られた乖離率を、全国および中部圏各県のマクロの家計消費の水準ととらえなおす。全国および中部圏各県の2018年度家計最終消費支出の見通し¹²に乖離率を掛け合わせることで概算すると¹³、全国では7月と8月における猛暑の影響で名目家計最終消費支出が合わせて1,655億円増加し、一方で実質家計最終消費支出が▲3,279億円減少することになる。同様に、富山県は名目で22億円増加する一方で、実質で▲26億円減少、石川県は名目で26億円増加する一方で、実質で▲16億円減少、福井県は名目で17億円増加する一方で、実質で▲16億円減少、長野県は名目で35億円増加する一方で、実質で▲20億円減少、岐阜県は名目で35億円増加する一方で、実質で▲56億円減少、静岡県は名目で20億円増加する一方で、実質で▲123億円減少、愛知県は名目で204億円増加する一方で、実質で▲142億円減少、三重県は名目で31億円増加する一方で、実質で▲29億円減少、滋賀県は名目で18億円増加する一方で、実質で▲38億円減少することになる。

¹² 当財団の経済見通し (http://criser.jp/bunnseki/keizai_mitoshi.html) を用いている。具体的には、2018年度家計最終消費支出の見通しを12で割って一か月の支出とし、7月および8月の乖離率をそれぞれ掛けたものを足し合わせた。

¹³ 乖離率は中部圏各県庁所在地のものであり、マクロの家計消費の水準の概算においては、これを県全体に当てはめていることに留意されたい。

表2-1 2018年7月（全国、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.5	1.5	22.1	0.1	11.1	1.5	-0.3
0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	4.3	3.0	10.8	-5.9	-14.0	-2.9	

(出所) 当財団による推計

表2-2 2018年7月（全国、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-3.4	-11.4	23.1	0.0	11.5	1.2	-0.5
-0.7	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	4.0	3.7	9.9	-7.4	-13.5	-2.6	

(出所) 当財団による推計

表2-3 2018年8月(全国、名目) 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.4	1.5	15.6	0.1	7.8	1.0	-0.2
0.3	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.0	2.1	7.6	-4.2	-9.9	-2.0	

(出所) 当財団による推計

表2-4 2018年8月(全国、実質) 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.9	-11.4	16.3	0.0	8.1	0.9	-0.4
-0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	2.8	2.6	7.0	-5.2	-9.5	-1.8	

(出所) 当財団による推計

表2-5 2018年7月（富山市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.3	2.0	21.2	-0.5	13.4	7.1	-0.6
0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	6.2	4.1	13.2	-6.3	-15.8	-2.6	

(出所) 当財団による推計

表2-6 2018年7月（富山市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-5.1	-14.3	21.8	-0.6	14.0	6.1	-0.6
-0.9	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	5.9	5.0	12.6	-8.1	-15.6	-2.3	

(出所) 当財団による推計

表2-7 2018年8月（富山市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.3	2.0	8.0	-0.2	5.0	2.7	-0.2
0.5	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	2.3	1.2	5.0	-2.4	-5.9	-1.0	

(出所) 当財団による推計

表2-8 2018年8月（富山市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-3.1	-14.3	8.2	-0.2	5.2	2.3	-0.2
-0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	2.2	1.8	4.7	-3.0	-5.9	-0.9	

(出所) 当財団による推計

表2-9 2018年7月（金沢市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	1.0	1.6	18.4	-0.2	16.3	1.0	-0.7
0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	4.9	4.5	16.2	-7.1	-17.7	-3.3	

(出所) 当財団による推計

表2-10 2018年7月（金沢市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-3.4	-11.4	19.3	-0.2	15.7	0.5	-0.7
-0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	4.7	4.8	14.3	-8.7	-17.2	-2.9	

(出所) 当財団による推計

表2-11 2018年8月（金沢市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.5	1.6	7.3	-0.1	6.5	0.4	-0.3
0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	2.0	1.5	6.5	-2.8	-7.1	-1.3	

(出所) 当財団による推計

表2-12 2018年8月（金沢市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.3	-11.4	7.7	-0.1	6.3	0.2	-0.3
-0.2	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.9	1.9	5.7	-3.5	-6.9	-1.2	

(出所) 当財団による推計

表2-13 2018年7月（福井市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	1.7	2.1	30.2	0.6	19.8	8.9	-0.4
0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	7.5	4.1	16.7	-6.6	-1.0	-9.8	

(出所) 当財団による推計

表2-14 2018年7月（福井市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-3.5	-16.1	30.8	0.5	19.8	8.9	-0.4
-0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	7.3	5.3	14.9	-8.3	-1.7	-8.5	

(出所) 当財団による推計

表2-15 2018年8月（福井市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.9	2.1	13.6	0.2	8.9	4.0	-0.2
0.5	光熱・水道	家具・家事用品		被服及び履物	交通	教養娯楽	
			エアコン デিশヨナ				
	3.4	1.6	7.6	-3.0	-0.4	-4.4	

(出所) 当財団による推計

表2-16 2018年8月（福井市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.7	-16.1	13.9	0.2	8.9	4.0	-0.2
-0.4	光熱・水道	家具・家事用品		被服及び履物	交通	教養娯楽	
			エアコン デিশヨナ				
	3.3	2.3	6.7	-3.8	-0.8	-3.8	

(出所) 当財団による推計

表2-17 2018年7月（長野市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	1.5	0.8	38.6	-0.0	8.7	14.9	-0.1
0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.8	3.6	16.7	-8.7	-19.5	-3.0	

(出所) 当財団による推計

表2-18 2018年7月（長野市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.2	-6.4	39.7	-0.0	8.7	14.5	-0.1
-0.5	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.6	3.7	11.9	-10.5	-18.9	-2.8	

(出所) 当財団による推計

表2-19 2018年8月（長野市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.5	0.8	11.6	-0.0	2.6	4.5	-0.0
0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.2	0.6	5.0	-2.6	-5.8	-0.9	

(出所) 当財団による推計

表2-20 2018年8月（長野市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-1.3	-6.4	11.9	-0.0	2.6	4.3	-0.0
0.0	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.1	1.1	3.6	-3.1	-5.7	-0.9	

(出所) 当財団による推計

表2-21 2018年7月（岐阜市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-0.2	2.1	14.6	-0.1	11.1	0.5	-0.9
0.5	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	4.4	4.9	13.8	-5.7	-1.8	-6.4	

(出所) 当財団による推計

表2-22 2018年7月（岐阜市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-5.2	-14.1	15.5	-0.1	10.6	0.8	-0.9
-0.9	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	4.0	4.7	12.4	-7.6	-1.1	-6.3	

(出所) 当財団による推計

表2-23 2018年8月（岐阜市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-0.0	2.1	8.5	-0.1	6.4	0.4	-0.5
0.5	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	2.6	2.7	8.0	-3.3	-1.1	-3.7	

(出所) 当財団による推計

表2-24 2018年8月（岐阜市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-3.8	-14.1	9.0	-0.1	6.1	0.0	-0.5
-0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	2.3	2.7	7.2	-4.4	-0.6	-3.7	

(出所) 当財団による推計

表2-25 2018年7月（静岡市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	1.5	1.7	14.8	0.6	-0.7	3.3	0.5
0.1	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.8	1.5	6.5	-4.7	-15.0	-4.8	

(出所) 当財団による推計

表2-26 2018年7月（静岡市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.2	-14.9	15.1	0.6	-0.8	1.9	0.5
-0.9	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.5	2.0	5.4	-6.0	-14.5	-4.6	

(出所) 当財団による推計

表2-27 2018年8月（静岡市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	1.3	1.7	9.9	0.4	-0.4	2.2	0.3
0.2	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.2	1.0	4.4	-3.2	-10.0	-3.2	

(出所) 当財団による推計

表2-28 2018年8月（静岡市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.2	-14.9	10.0	0.4	-0.5	0.0	0.3
-0.8	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.0	1.3	3.6	-4.0	-9.7	-3.1	

(出所) 当財団による推計

表2-29 2018年7月（名古屋市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.3	1.3	20.3	-1.1	9.5	12.3	0.2
0.8	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	5.6	7.1	19.0	-5.4	-7.0	-1.8	

(出所) 当財団による推計

表2-30 2018年7月（名古屋市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-3.8	-11.3	20.8	-1.0	9.9	12.2	0.3
-0.5	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	5.5	6.3	21.4	-6.9	-6.9	-1.4	

(出所) 当財団による推計

表2-31 2018年8月（名古屋市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.3	1.3	13.3	-0.7	6.2	8.0	0.1
0.6	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.7	4.6	12.5	-3.5	-4.6	-1.2	

(出所) 当財団による推計

表2-32 2018年8月（名古屋市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-3.0	-11.3	13.6	-0.7	6.5	8.0	0.2
-0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.6	4.1	14.0	-4.5	-4.5	-0.9	

(出所) 当財団による推計

表2-33 2018年7月（津市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	1.0	1.5	27.8	1.0	19.2	0.5	-0.4
0.5	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.6	4.5	10.7	-6.1	-5.9	-6.0	

(出所) 当財団による推計

表2-34 2018年7月（津市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.6	-11.0	28.1	0.9	20.1	0.8	-0.4
-0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.4	4.8	9.0	-7.3	-6.9	-5.7	

(出所) 当財団による推計

表2-35 2018年8月（津市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.8	1.5	19.7	0.7	13.6	0.4	-0.3
0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	2.6	3.2	7.6	-4.3	-4.2	-4.3	

(出所) 当財団による推計

表2-36 2018年8月（津市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.2	-11.0	19.9	0.7	14.2	0.6	-0.3
-0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	2.4	3.4	6.3	-5.2	-4.9	-4.1	

(出所) 当財団による推計

表2-37 2018年7月（大津市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.7	1.4	11.2	0.6	12.1	4.7	-0.3
0.3	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.3	4.3	14.7	-6.8	-15.6	-3.1	

(出所) 当財団による推計

表2-38 2018年7月（大津市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-3.3	-10.9	11.3	0.6	12.1	4.7	-0.3
-0.9	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	3.0	4.5	12.8	-8.4	-15.6	-3.6	

(出所) 当財団による推計

表2-39 2018年8月（大津市、名目） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	0.5	1.4	5.8	0.3	6.3	2.5	-0.2
0.4	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.7	2.0	7.6	-3.5	-8.1	-1.6	

(出所) 当財団による推計

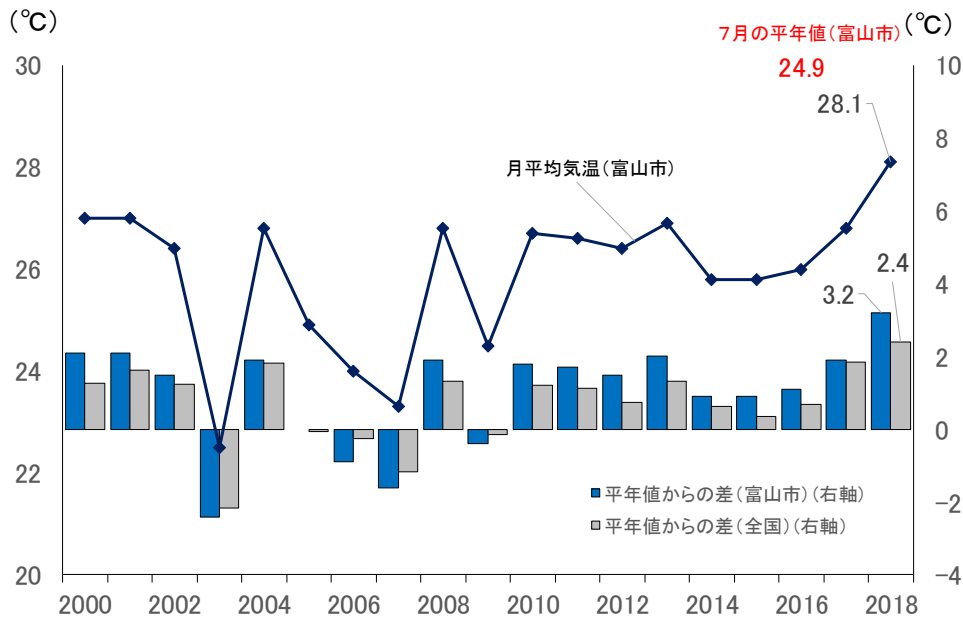
表2-40 2018年8月（大津市、実質） 猛暑の家計消費支出への影響

消費支出全体 ※ 平年値(2000年から2017年までの平均)からの乖離率(%) 右の内訳についても同様	食料						
		野菜・海藻	アイスクリーム	調理食品	飲料	酒類	外食
	-2.4	-10.9	5.8	0.3	6.3	2.5	-0.2
-0.5	光熱・水道	家具・家事用品	エアコン デিশヨナ	被服及び履物	交通	教養娯楽	
	1.5	2.3	6.6	-4.4	-8.1	-1.9	

(出所) 当財団による推計

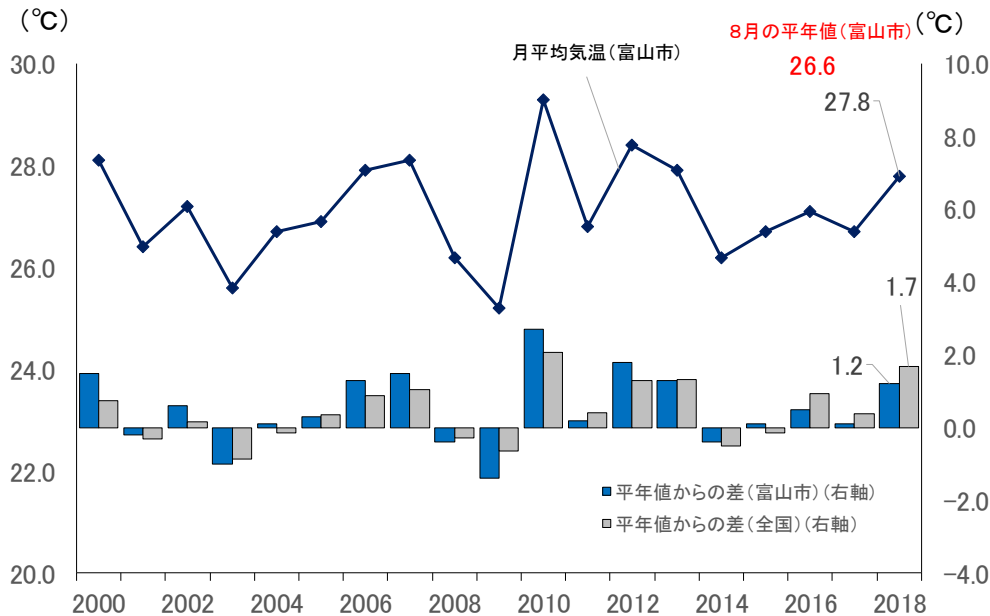
(島澤 諭、難波了一)

付録図1-1 各年7月の月平均気温と平年値からの差（富山市）



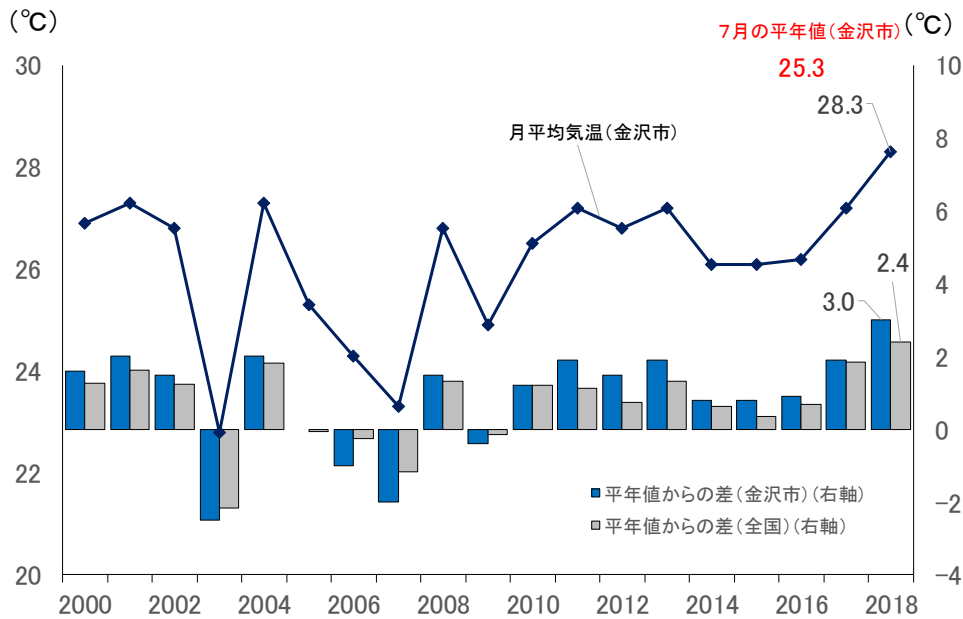
(出所) 国土交通省気象庁

付録図1-2 各年8月の月平均気温と平年値からの差（富山市）



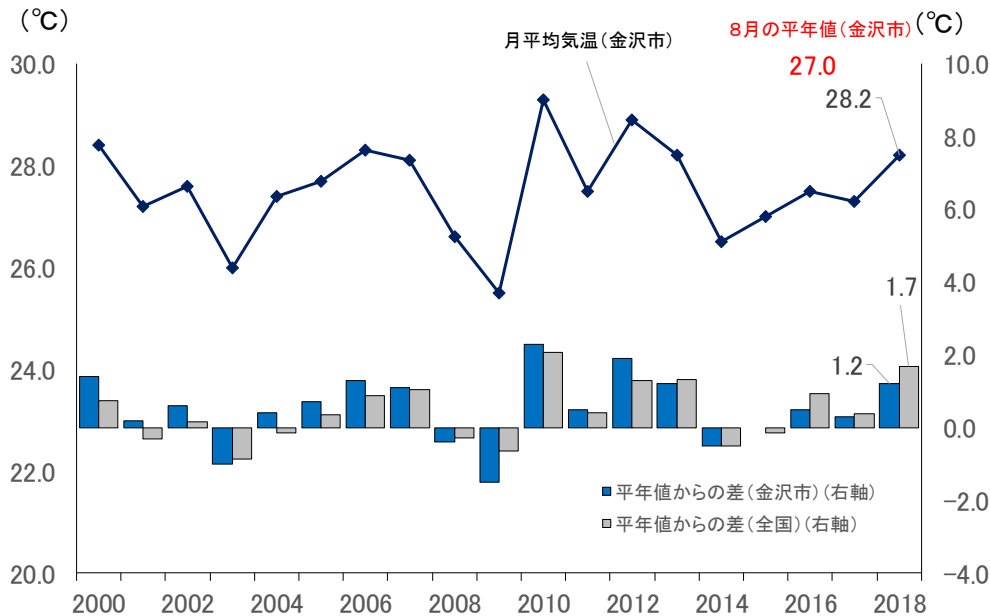
(出所) 国土交通省気象庁

付録図 1 - 3 各年7月の月平均気温と平年値からの差（金沢市）



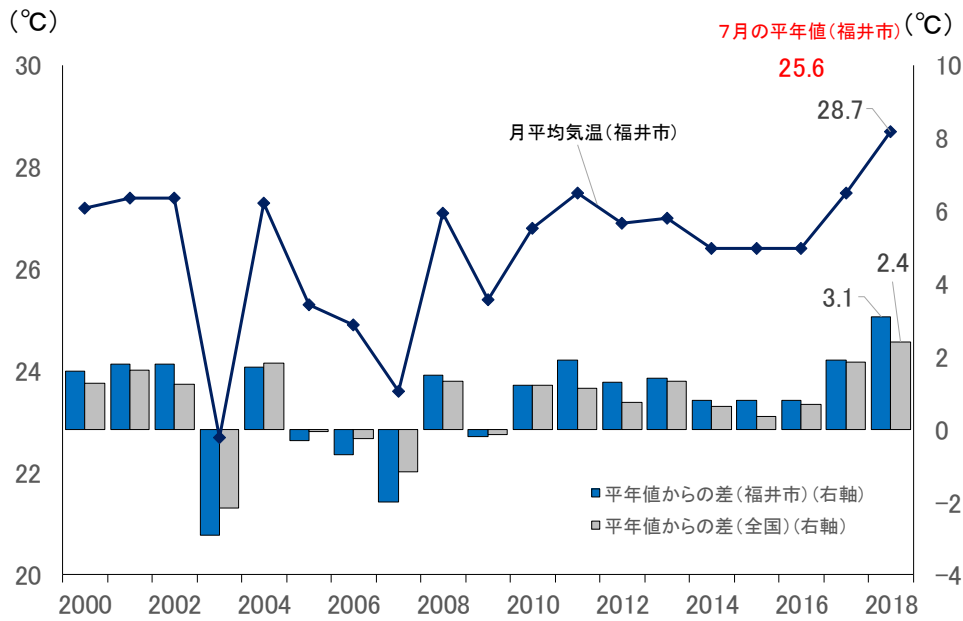
(出所) 国土交通省気象庁

付録図 1 - 4 各年8月の月平均気温と平年値からの差（金沢市）



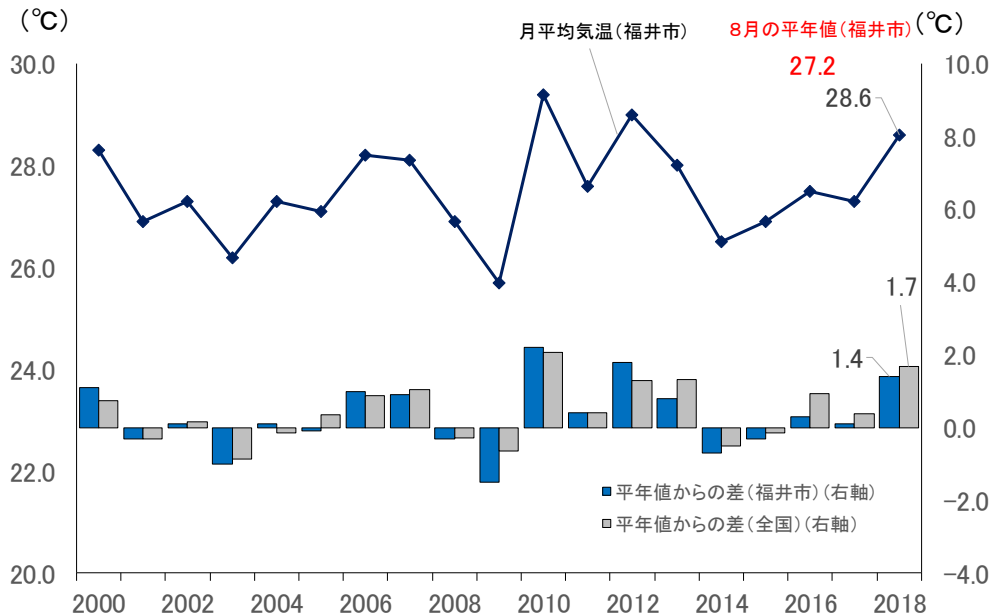
(出所) 国土交通省気象庁

付録図 1 - 5 各年7月の月平均気温と平年値からの差（福井市）



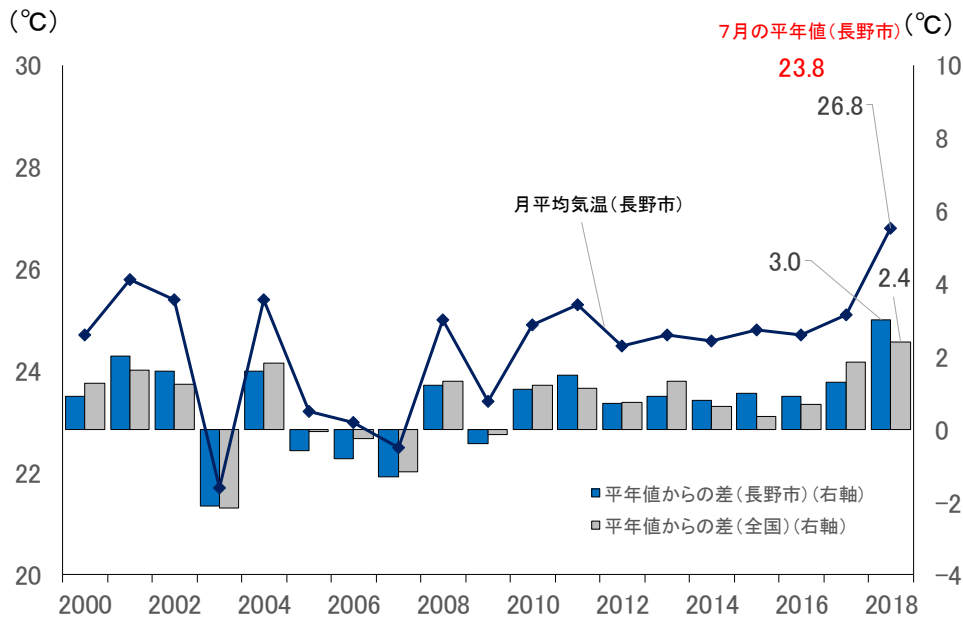
(出所) 国土交通省気象庁

付録図 1 - 6 各年8月の月平均気温と平年値からの差（福井市）



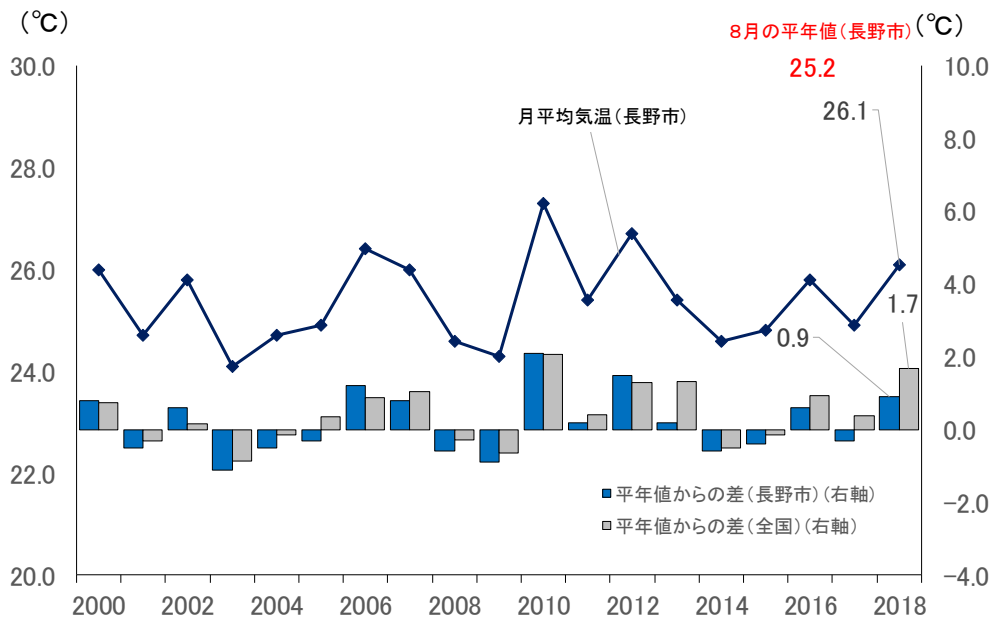
(出所) 国土交通省気象庁

付録図1-7 各年7月の月平均気温と平年値からの差（長野市）



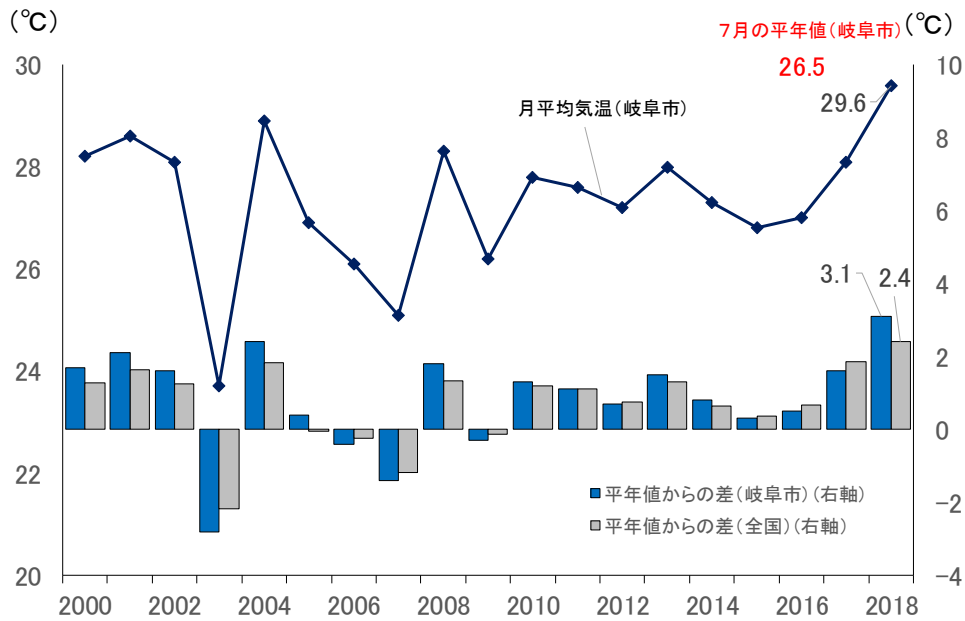
（出所）国土交通省気象庁

付録図1-8 各年8月の月平均気温と平年値からの差（長野市）



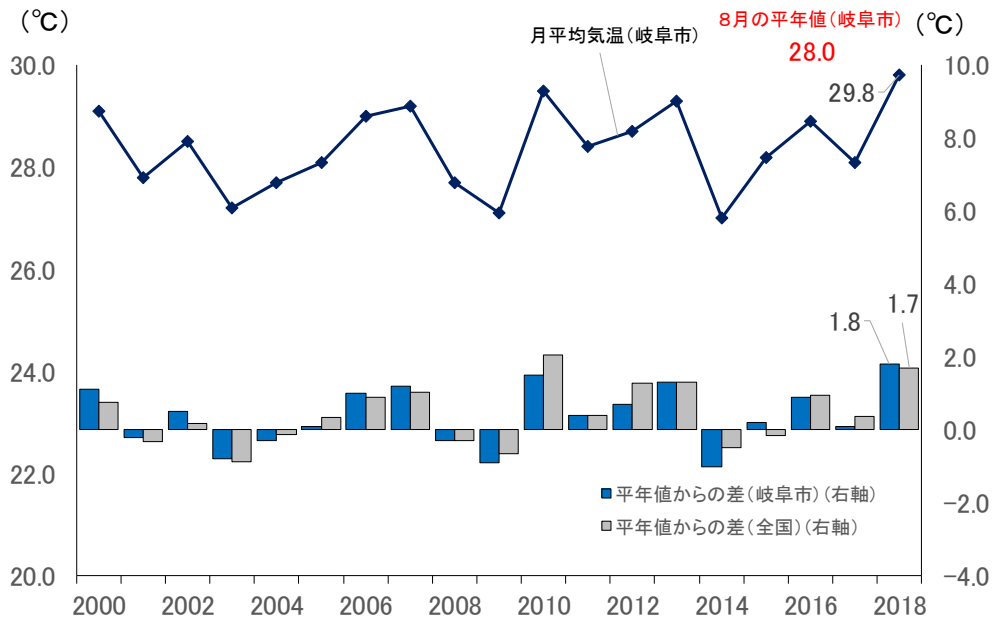
（出所）国土交通省気象庁

付録図1-9 各年7月の月平均気温と平年値からの差（岐阜市）



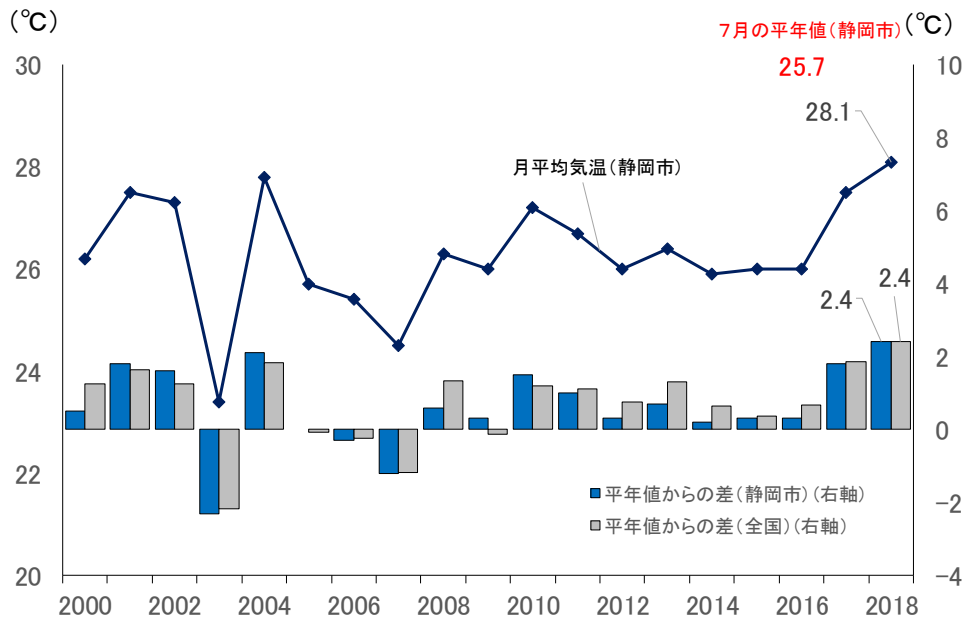
(出所) 国土交通省気象庁

付録図1-10 各年8月の月平均気温と平年値からの差（岐阜市）



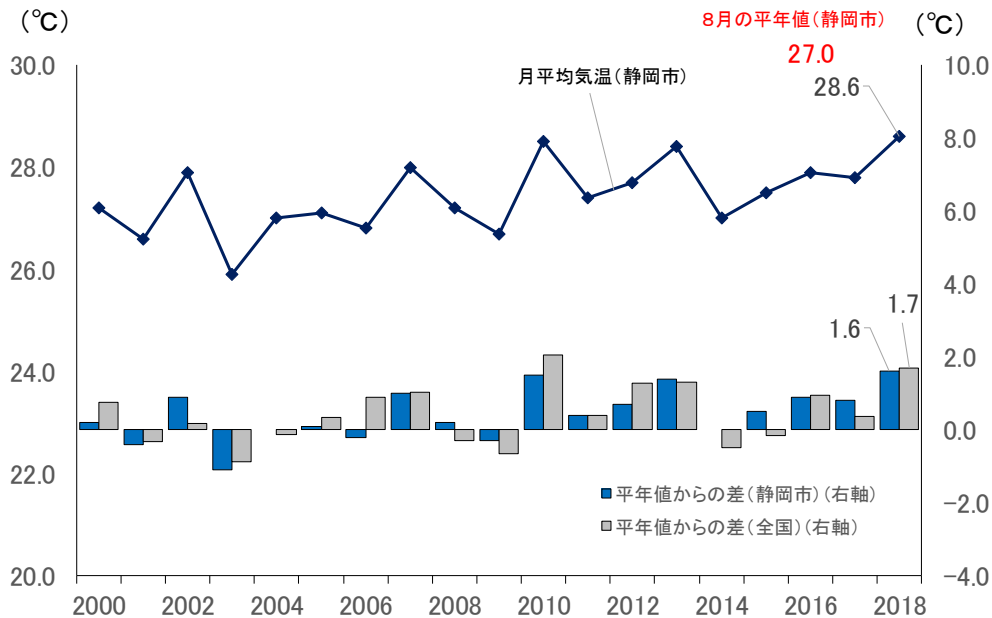
(出所) 国土交通省気象庁

付録図 1 - 1 1 各年7月の月平均気温と平年値からの差（静岡市）



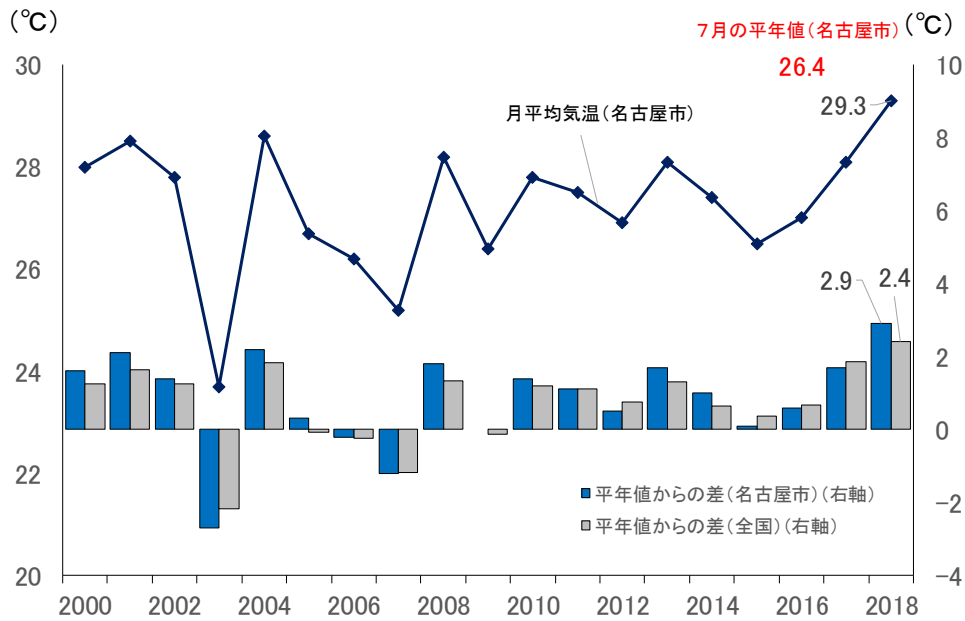
(出所) 国土交通省気象庁

付録図 1 - 1 2 各年8月の月平均気温と平年値からの差（静岡市）



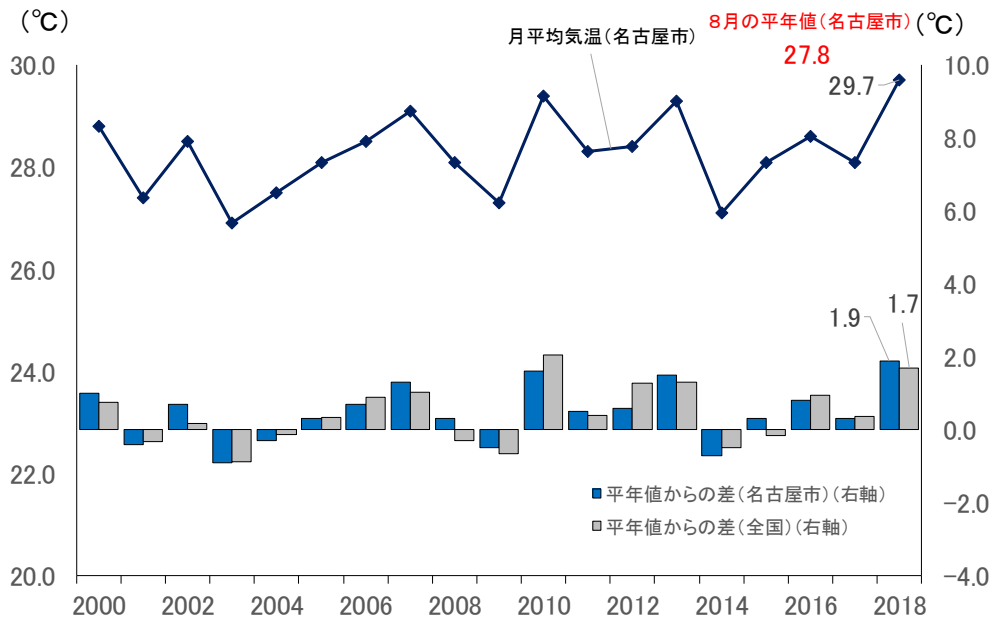
(出所) 国土交通省気象庁

付録図1-13 各年7月の月平均気温と平年値からの差（名古屋市）



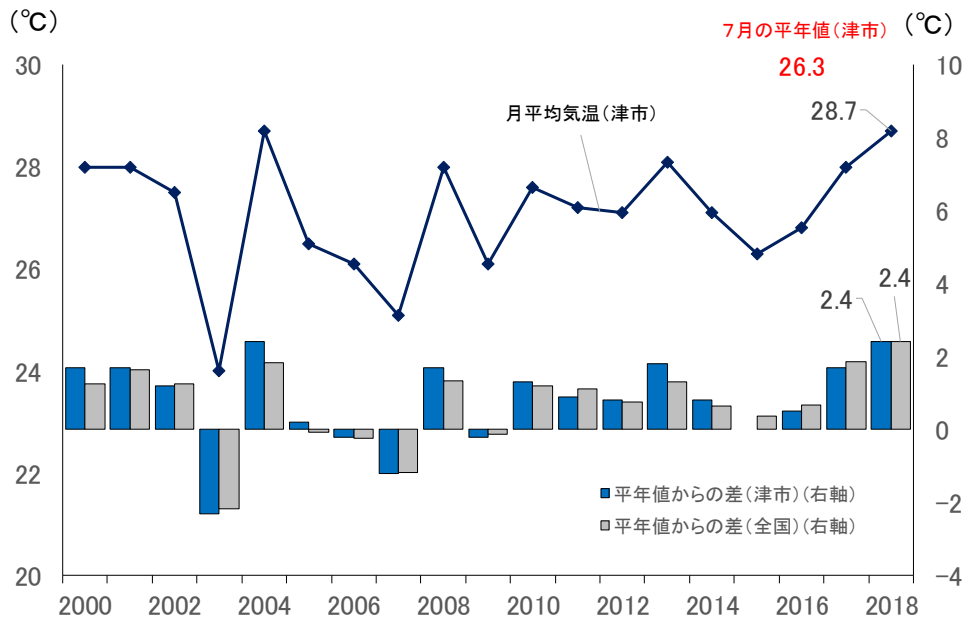
(出所) 国土交通省気象庁

付録図1-14 各年8月の月平均気温と平年値からの差（名古屋市）



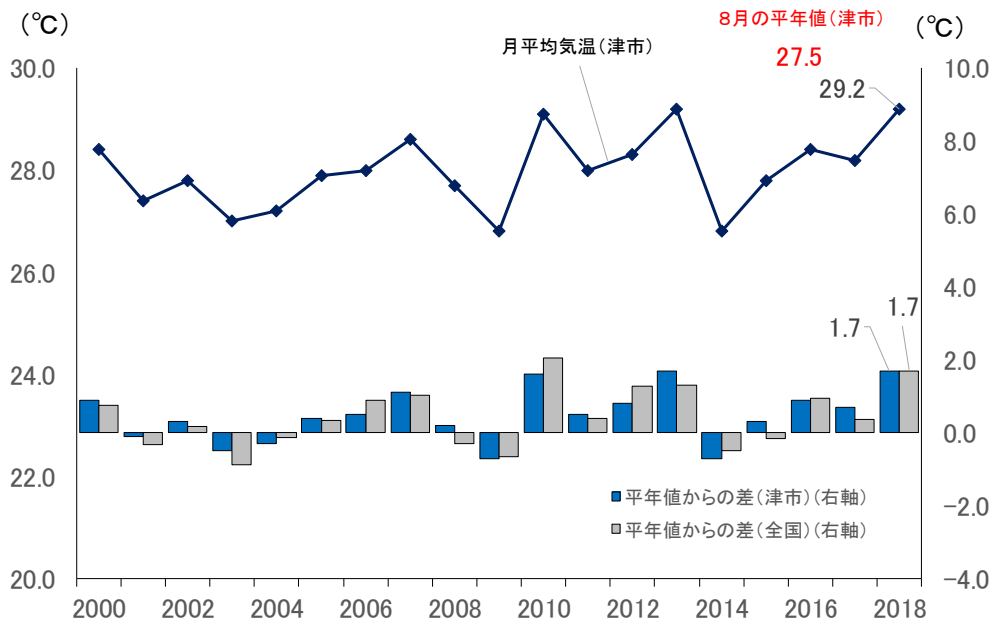
(出所) 国土交通省気象庁

付録図1-15 各年7月の月平均気温と平年値からの差（津市）



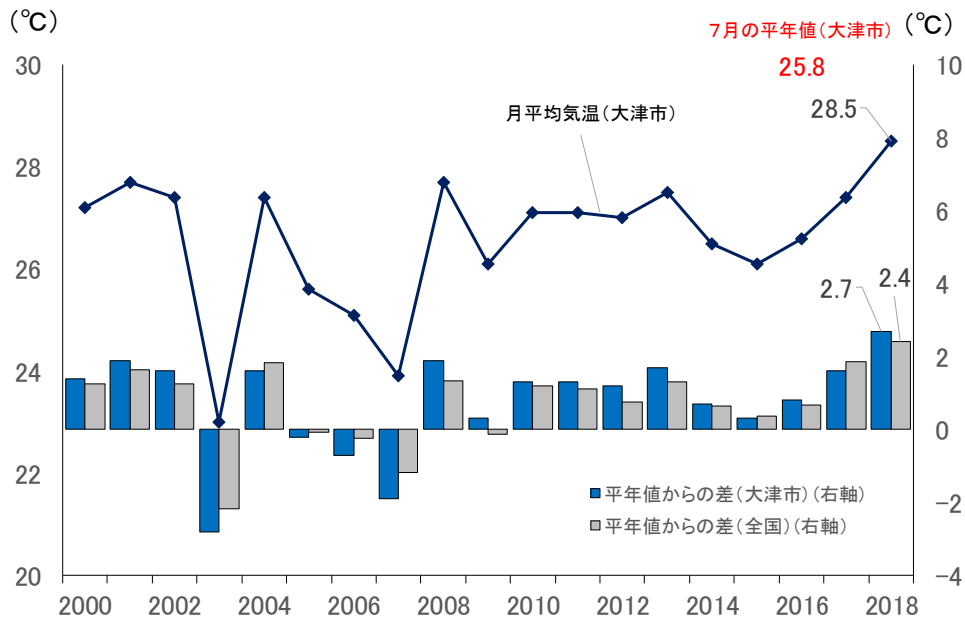
(出所) 国土交通省気象庁

付録図1-16 各年8月の月平均気温と平年値からの差（津市）



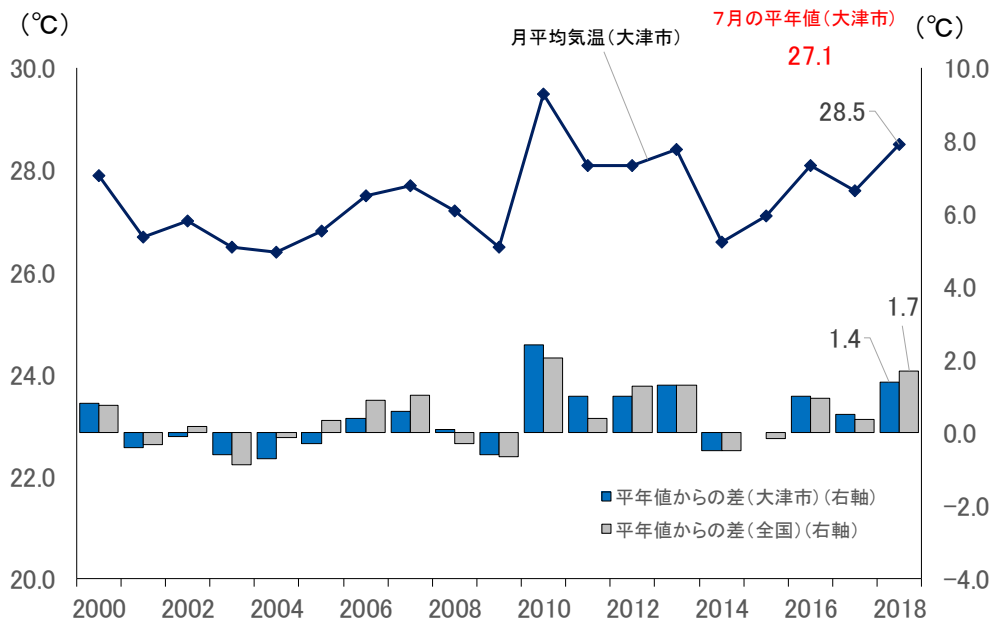
(出所) 国土交通省気象庁

付録図 1 - 1 7 各年7月の月平均気温と平年値からの差（大津市）



(出所) 国土交通省気象庁

付録図 1 - 1 8 各年8月の月平均気温と平年値からの差（大津市）



(出所) 国土交通省気象庁

付録表 2 - 1 全国の家計の飲料消費支出（名目）についての重回帰分析の結果

被説明変数	説明変数				備考
	平均気温 (平年値からの差)	降水量の合計 (平年値からの差)	名目可処分所得 (平年値からの乖離率)	休日数 (平年値からの差)	
飲料消費支出 (名目、平年値 からの乖離率)	4.63 (5.07)	▲0.00 (▲0.21)	0.05 (0.85)	0.93 (1.80)	サンプル:36 R2=0.695

$\times 2.4$ (2018年7月の月平均気温の平年値からの差、℃) = 11.1
 $\times 1.7$ (2018年8月の月平均気温の平年値からの差、℃) = 7.8

2018年7月、8月の猛暑の影響により、全国の飲料消費支出(名目)はそれぞれ平年値から11.1%、7.8%増加

(備考) 表中カッコ内は t 値。

(出所) 総務省統計局「家計調査」と国土交通省気象庁のデータから当財団作成

最近の中部社研経済レポート

No.	発表年月日	タイトル
18	2018年9月13日	2018年7月と8月の猛暑が全国および中部圏の家計消費に与える影響について
17	2018年8月20日	全国・中部圏の旅行者数・旅行消費の長期予測と経済効果について
16	2018年8月9日	平成30年7月豪雨が中部圏経済に与える影響に関する試算～サプライチェーン寸断の影響～
15	2018年5月23日	原油価格上昇がもたらす全国・中部圏経済への影響について
14	2018年4月6日	2018年2月大雪が北陸の消費と生産に与えた影響について
13	2017年11月6日	国際コンテナ貨物・港湾の動向と名古屋港の競争力と課題について
12	2017年10月31日	世代別消費構造の変化と近年のエンゲル係数上昇の要因について～全国、東海3県、北陸3県を中心として～
11	2017年7月12日	ロボット産業市場の現状について
10	2017年6月20日	人手不足と賃金上昇の関係について ～北陸・東海で賃金上昇局面入りの確率が高まる～
9	2017年3月23日	レゴランド・ジャパン開業の経済効果について
8	2017年1月23日	訪日中国人観光客の爆買いの動向と今後について
7	2016年12月27日	全国・中部圏（東海・北陸）の人手不足の現状と今後の推移について
6	2016年9月27日	北陸新幹線開業に伴う観光を中心とした影響について
5	2016年6月21日	18歳選挙権と世代間格差について～全国・中部圏における若者の政治的影響力の今後と若者の政治参加の必要性について～

※ No.4以前のレポートについては、当財団HPでご確認ください



Chubu Region Institute for Social and Economic Research

公益財団法人
中部圏社会経済研究所

本レポートは、中部圏の社会・経済に関するタイムリーな話題を、平易かつ簡潔に解説するために執筆されているものです。本レポートに関するお問い合わせは、研究部（代表 052-212-8790）までご連絡下さい。

公益財団法人中部圏社会経済研究所とは

当財団は、財団法人中部産業活性化センター、社団法人中部開発センター、財団法人中部空港調査会の3団体から理念と事業を継承し、中部圏である中部広域9県（富山・石川・福井・長野・岐阜・静岡・愛知・三重・滋賀県）を事業エリアとする総合的・中立的な地域シンクタンクとして、産業の活性化および地域整備をすすめるため、「広域計画」、「地域経営」、「産業振興」、「航空・空港」を4つの柱として事業を展開しています。

地域や時代のニーズに応え、地域社会の発展に貢献するため、調査研究能力を一層強化し、産学官の連携の中で、中部広域9県という事業エリアを意識して、調査研究をすすめ、広く社会に情報発信しております。

2010年5月に経済分析・応用チーム（現・研究部）を発足させ、中部圏の経済活動を分析するためのツールの開発を行い、研究をすすめてきました。2015年10月から、「中部社研経済レポート」を新たに発刊・発表し、タイムリーなテーマを実証分析して、情報発信を行っています。今後も、調査能力と情報発信の一層の強化・充実をすすめてまいります。

所在地等 〒460-0008
名古屋市中区栄四丁目14番2号 久屋パークビル3階
Tel (052)212-8790 Fax(052)212-8782
ホームページ:<http://www.criser.jp>
E-mail:criser@criser.jp